

第2回策定会議で提出いただいたご意見・ご質問一覧

No	施策No	委員名	種別	内容（転記）
1	4	森委員	意見	文末の表現について、「育てることが出来ます」は、他の施策と合わせる形で「育てることができています」とした方がよろしいかと思います。
2	4	植田委員	意見	「指導検査実施完了割合」が意味することが保育の質が担保されていることになるのかわからない。どのような指導検査の内容なのか？完了ということが、検査を実施したということの意味しているのであれば、指標として適切とは言えないのではないか。検査に合格した事業者の割合とかなら質を担保しているといえると思うが、この完了という言葉の意味合いは何か。
3	4	植田委員	意見	指標2について。良質で多様なということを追求するのであれば、この指標だけでは図られないのではないかと。特に多様なという側面が。今後は、多様な部分への配慮が今後はより重要になるので、そのあたりを図る指標も必要ではないか。
4	4	植田委員	意見	現状認識は説明されているが、それに基づく課題が、もう少し長期的な視点に基づいて示される必要があるのではないかと。このままだと、どのような課題をこの10年間で解決していくための取り組みをするのかが見えない。
5	4	植田委員	意見	今後の展望としては、現在は就学前の人口が増えているが、今後10年を考えたときに、その人口が減少に転じる時期がくることを見越し、そのことへの備えも今回の長期計画では意識しなければならないのではないかと。そのような視点での保育サービスの課題が書かれていないのは気になる。
6	4	植田委員	意見	「なぜ、保育施設の整備から、待機児童数の解消に変更したのか」の説明がない。
7	4	植田委員	意見	多様な部分への対応について現在取り組まれていると思いますが、具体的にどのような多様性を提供するためのどのような取り組みがどこまでできているのかという現状を示す必要があると思います。今回の資料ではその点に関するデータ等が示されていない。その上で、多様性をより実現するために何を取り組むのか、そしてその実現可能性はどこまでであるのかということを説明してほしい。
8	4	植田委員	意見	今回の内容が質に視点を置いていることは評価できる。 良質なという部分は、保育指針や保育基準等である程度統一的な基準があり、それを見たいしているかどうかということを確認できると思う。 一方で、多様性については、個々人でも持っているイメージは違うし、時代によっても求められるものが変わっているものであると思う。そのため「目指す姿」の部分で、具体的な多様性の内容を記述するのは難しいと思うが、今目指している多様性の内容を示し、共通理解しておくことが必要であると思う。その意味で、取組方針及び指標の部分において、今目指している多様性の内容はこうであるということを示していくことが必要ではないか。
9	4	吉武委員	意見	江東区のこれまでの取組の成果を定量データで示した方が良いのではないかと。
10	4	吉武委員	意見	1、2を通して、全体として抽象的で、記述内容も不十分な印象が否めない。区民が区の本気度を感じられるように、一層の検討をお願いしたい。
11	4	植田委員	意見	質的な側面を重視することがよい方向性である。
12	4	植田委員	意見	前回の多様なに加えて「良質」という視点が入ってるが、その良質を確保するための主な事業はなにか。良質を確保するための主な事業があった上で、指導検査実施をしてその結果が合格するという流れになるのではないかと。

No	施策No	委員名	種別	内容（転記）
13	5	内海委員	質問	指標「必要な子育て情報が入手できる保護者の割合」について。その割合が60%前後なのに対して予算が「維持」になっている理由を知りたい。
14	5	内海委員	質問	「論点データ集」に「子育て情報ポータルサイト」の利用者数がアクセス数で掲載されているが、登録者数、登録率はどの位か。
15	5	内海委員	質問	その他、「子育て情報ポータルサイト」や「子育て情報アプリ」登録者の満足度が知りたい。情報提供のみならず、登録者へのアンケート等による情報収集、データ分析を行えば、子育て環境の現状把握、迅速な改善に繋がるのではないか。
16	5	内海委員	質問	これから総合的支援、機能強化、きめ細やかな支援策の充実が求められる子育て支援施設において、ペーパーレス、システム化は利用者の利便性、利用率向上と共に職員の負担軽減の為に図られるべきと思うが、検討、計画はされているか。
17	5	内海委員	意見	妊娠、出産後の区役所への届出から始まり、保健所での各健診時、各みずべ、児童館、幼稚園、保育園での「子育てひろば」登録、利用時と各機関、施設でそれぞれに書類記入、みずべにおいては施設ごとに「登録カード」が必要とされている状況は、決して利用しやすい環境とは言えない。全ての登録等は最初に訪問した機関、施設や「江東区子育て情報ポータルサイト」で済むような手続きの簡素化、スピード化や各図書館共通の「登録カード」のような「各子育て施設共通カード」による利便性、利用率向上、並びに各施設が利用者の子育て状況を共有、把握、活用できるようなシステム化は図れないか。
18	5	内海委員	質問	切れ目のない子育て支援の為に、H31.4月から運用開始されている「母子保健システム」と他の子育て支援施設とのシステム連携は図られるのか、どのような予定か。
19	5	内海委員	質問	一時預かり「ファミリーサポート」事業では、協力会員不足が課題となっているが、その原因について。協力会員へのアンケート等による改善は図られているか。 利用会員、サポートセンターとの3者間における、主に紙媒体による手続きの多さ、複雑さを解消することも課題改善や事業の発展につながるのではないか。
20	5	内海委員	質問	H31.4.28厚労省発表「2017年度に児童養護施設等で把握された子ども同士による性的問題」が全国で732件とあったが、江東区における件数及び対策について知りたい。
21	5	内海委員	質問	指標「リフレッシュひととき保育定員数」について。定員数では適正かの判断、評価がしにくい。データ一覧⑨不定期の教育・保育事業や一時預かり等の利用状況における「利用したいが、空きがない等の理由で利用ができない」55.2%他を解消することの方が指標になり得ないか。またその原因、改善策、予算変更について知りたい。
22	5	内海委員	意見	指標「こどもに対してしつけのためなら体罰も容認されるを考えている区民の割合」について。児童虐待の相談窓口の認知度が40%に留まっているという状況の方が指標になり得ないか。
23	5	植田委員、内海委員	意見	なぜ利用者数や定員数なのか？対象となる層の中での割合の方が重要ではないか。ターゲットとしている人の中で利用されていることの方が重要ではないか。同じ人が利用しているだけでは十分とはいえないのではないか。
24	5	植田委員	質問	なぜ、取組方針「2. 子育て家庭への経済的支援・自立支援」の指標がないのか
25	5	植田委員	意見	行政と地域が協働しということが目指す姿で示されているが、そのあたりを検証する指標は含めなくてよいのか。

No	施策No	委員名	種別	内容（転記）
26	5	植田 委員	意見	なぜ区民の割合なのか？この事業は子育て世代をターゲットにしているとすればその世代に限定した割合を指標にした方がよいのではないか。
27	5	植田 委員	質問	目指す姿に「行政と地域が協働し」とあるが、取組方針のところにそのような内容がないように思うがどうか？
28	5	植田 委員	質問	自立支援が加わっているが、なぜか？その具体的な取組は？
29	5	植田 委員	質問	虐待対応力の強化ということが加わっているが、その具体的な取組は？
30	5	植田 委員	意見	もう少し、行政と地域が協働しという部分の内容がわかるものにしないとイケないのではないか。 子育て家庭への経済的支援・自立支援、児童虐待の未然防止と虐待対応力の強化という視点は、8. こどもが安全に過ごせる居場所・環境づくりと関係する内容でもある。つまり、地域と協働している視点でつながるものであり、そのあたりとの関係をどう整理して全体的な構成を考える必要があると思う。
31	5	吉武 委員	意見	印象の域を出ないが、「楽しく子育て」という表現に違和感を抱く区民もいるのではなかろうか。通常環境においても、子育ては楽しいばかりではないし、厳しい環境にある区民を中心に「楽しく子育て」にリアリティを感じないケースも少なくないだろう。言葉一つの使い方に、検討の深さが表れることもあるので、さらに議論を深めていただきたい。
32	5	吉武 委員	意見	現状と課題の並び方を再検討してほしい。前半部分に区や国の施策を記載するならば、2つ目の記述の位置は適切ではないように思う。
33	5	吉武 委員	意見	1、2を通して、全体として抽象的で、記述内容も不十分な印象が否めない。区民が区の本気度を感じられるように、一層の検討をお願いしたい。
34	5	植田 委員	質問	子育て支援が必要ということの中身が利用者のニーズと合致しているのかということは検証されているのか？つまり、利用者数等人数の場合に、同一人物が複数回利用しているという延べ人数が増加していたとしたら、必ずしも区民のニーズに合致しているとはいえない現状があるのではないのか。対象とする層の中でどれくらいの割合が利用しているのかということの方が状況を反映しているように思う。もしその割合が低い場合は、区民ニーズに合致した支援が行われていないという課題が浮き彫りになると思う。複数回利用したことがある割合の現状を知りたい。
35	5	植田 委員	質問	以前は「支援機能」としているが、今回「支援サービス」としているが、取組方針としての何か違いあるのか？
36	6	内海 委員	質問	「不登校児童・生徒数の理由」で教員、学校の指導、対応が原因の件数、分析、対策について知りたい。
37	6	植田 委員	質問	・ 国の学力調査は客観的なデータとして活用できると思われそうですが、そのデータをもとに行われている学校ごとの改善の取り組みを把握しているのでしょうか。学校ごとに運用されている制度は、「こうとうまなびスタンダード」のため、学校の取り組み状況をより詳細に把握するためにも、「こうとうまなびスタンダード」をベースに指標を設定する必要があるのではないのでしょうか。 ・ また、教員の指導力に関して、教員に対する研修の実施数など、教員の指導力向上を把握するための指標設定が必要ではないかと思います。
38	6	植田 委員	意見	学習指導要領が変わることを念頭に施策の内容を検討する必要があります。また、society5.0やSGDsなどの昨今の社会情勢を踏まえながら、10年先を見据えた文言を施策に記載する必要があるのではないのでしょうか。

No	施策No	委員名	種別	内容（転記）
39	6	吉武委員	意見	女性の理系進学率が低い状況に鑑み、男女の分け隔てが無い科学教育を行うという視点について検討してはいかがでしょうか。特に男女共同の取り組みは、こどもの時からの早期の取り組みが重要です。これらの視点を踏まえ、江東区ならではの特色ある施策にしていきたいです。
40	6	森委員	意見	会議でもご意見がありましたが、取組方針4（教員の資質・能力の向上）に関わる指標設定が必要だと思います。例えば、教員向けアンケート（何らかの形で実施しているかとは思いますが）で、「児童・生徒に接する時間を確保できているか」「教員としての資質・能力の向上を実感できているか」「仕事にやりがいを感じているか」などの質問により、現場の教員が実際のところどう感じているかに着目することが有効と考えます。（保護者の意見を指標とすることも考えられると思います）
41	6	森委員	意見	施策12（一人ひとりが尊重される社会の実現）で主に取り扱われると思いますが、寛容な心をライフステージの早期に育むことが、いじめや差別、ひいては社会的分断を解消していく大きな力になると考えます。したがって、「多様性に関する教育」「ダイバーシティ教育」等のように明確に謳ってもよろしいかと思います。
42	6	植田委員	意見	充実とあるが、具体的に何をもって充実したとするのかのイメージがわからない。
43	6	植田委員	意見	どのような子どもを育てたいのか、そのために区としてどのような学校教育を提供すべきなのかということを書いてほしい。
44	6	植田委員	意見	区教委として、教育大綱のようなものでいろいろと書かれているので、そのあたりとの整合性なども考える必要がある。
45	6	植田委員	意見	江東区が考える未来においてどのような子どもをどのように育てるために、区として何を学校教育において充実させるのか、その結果、江東区においてどのような学校教育が実現されているのかという姿を示してほしい。
46	6	植田委員、吉武委員	意見	書かれていることが、江東区でなくても、どこの自治体でも通じるような内容である。江東区としての目指す姿を示してほしい。江東区の学校教育の充実により、はぐくまれる確かな学力とは、思いやりの心とは、健康的な身体とはを示してほしい。そうでないと、検証ができない。
47	6	植田委員	意見	「求められています」という内容ばかりで、現状の記述がほとんどない。学びスタンダードに基づいて何に取り組んできた結果、知徳体のどの部分がどれだけ達成できて、まだ何が達成できていないのかを記述してほしい。そうでないと、課題も明確にならないし、取り組むべき課題も明示できないのではないかと。一般的な学校教育への期待ではなく、具体的な現状も踏まえて、取り組むべき内容を記述する。また具体的にどのような課題があるか、その課題解決のために何をしなければならぬのかを明示すべきである。そのあたりの記述がみられないように思う。
48	6	植田委員	意見	「学習内容の充実」とあるが、教委としてどこまで学習内容に踏み込むのか、「教育活動の充実」の表現の方が適しているように思う。
49	6	植田委員	意見	「思いやりの心の育成」の主な事業が健全育成事業になっているが、学校教育の取組としては何に取り組むのか。
50	6	植田委員	意見	小中で課題が異なる状況をふまえた記述が必要ではないか。取組もそして指標も決めていくべきではないか。
51	6	植田委員	意見	教員の資質・能力の向上において、勤務環境の整備、働き方改革という部分に触れられているが、そのあたりの具体性が乏しい。長期計画の前半の期間では、このあたりの取組がかなり学校教育においては重要になると思うが、そのあたりの方向性をどう考えているのか。

No	施策No	委員名	種別	内容（転記）
52	6	植田 委員	意見	教員の資質・能力の向上に関する取り組みが、「1. 学習内容の充実」との関係で重要である。教職員研修事業や教育調査研究事業においてどのような取り組みがなされるのか、具体的な内容がわからない。
53	6	植田 委員	意見	新学習指導要領や、Society5.0や国連のSDGsなどの動向などももう少し、社会全体の動きを踏まえながら、かつ長期的な展望等も視野に入れた教育活動の充実や、教員の研修などの内容を盛り込む必要がある。
54	6	植田 委員	意見	学校教育の内容においては、現在取り組まれていることをそのまま維持している感じで、これから先の10年を見越したという視点が乏しいように思う。 これから10年間は、今までにないほど、学校教育を取り巻く環境の変化はすでに分かっている範囲でも大きいことは自明の事実である。また、すでに新学習指導要領やEduTechやSociety 5.0、SDGsなど学校教育に関わる変化が示されている。また教員を取り巻く環境も組織的にも変化しようとしている。そのことすら踏まえた記述になっていないのはどうしてなのか。 江東区において「未来を担うこどもを育むまち」を実現するために、学校教育の何をどのように充実させるのか、その充実した結果、どのような子どもたちが育つのかというビジョンが感じられない。
55	6	吉武 委員	意見	国の政策、区のこれまでの取組などを説明した後、どのような課題があるか、またこれからの社会を見据えた場合、教育に如何なる要素が求められるかなどを、順を追って記述してほしい。
56	6	吉武 委員	意見	算数・数学や理科の素養は今後益々重要性を増すものと思われる。首都東京の特別区という環境を活かし、これらの教育で江東区としての特色を強く打ち出すことも大切。
57	7	内海 委員	質問	指標「地域学校協働活動に参加したボランティア数」について。年間延べ人数で適正判断、評価はできないのではないかと。まずは学校支援地域本部事業自体の認知度が低いと思われるがどうか。
58	7	内海 委員	意見	指標「改修・改築を実施した学校数」について。施設の老朽化対策は長期的事業ではあるが、当然実施される、既に見込まれている事業のはず。教育施設におけるシステム化、ペーパーレス化についてはどのような検討、計画がされているか。増加する共働き保護者の利便性向上、教員の負担軽減の為の指標の方が必要のように思う。
59	7	植田 委員	意見	・「連携・協力」の時代ではなく、「連携・協働」の時代です。 ・教育環境という表現はよいと思います。
60	7	植田 委員	質問	なぜ、支援完了者の割合なのか？なぜ特別支援教室の支援を完了することが目的なのか？ 特別支援教室の退級者の割合を高めることを目標値にしてしまうと、それを高めることが目的化しかねない危惧がある。また、通常学級に戻した場合の支援体制が整備されない限り、退級者を増やすことは危険である。特別支援教育は個に応じて丁寧に、継続的な教育及び支援が必要なものであり、この内容を指標にするのは項目の趣旨と反するように思う。
61	7	植田 委員	質問	なぜ、ボランティア数なのか？今後は、地域学校協働本部事業にシフトしていくのであれば、その事業の実施校数（あるいは割合）などの方がよいのではないかと。
62	7	植田 委員	意見	取り組んできた結果、どのような現状になっているのかという記述が薄いです。何ができていて、今、特別支援教育の状況がどうなのか、いじめ対応の状況がどうなのかという部分が現状がよくわかりません。
63	7	植田 委員	意見	今後は「合理的配慮」ということがキーワードになって展開される訳であり、区としての特別支援教育を全学校に設置したことがこれまでの実績であると思います。今後は全校設置した特別支援教育をどのように展開して合理的配慮に基づいた特別支援教育を展開するのかという方向性をどう実現していくのかということだと思いが、そのあたりの具体的な取組方針が見えない

No	施策No	委員名	種別	内容（転記）
64	7	植田 委員	意見	記述が学校外や専門家の派遣という部分に重点が置かれているように見える。いじめ防止法等の中では、学校内での取組も重視されており、かついじめの未然防止や早期発見、早期解決のためには学校内での対応がより重要になる。そのあたりの取組の実態の現状はどうか？そのあたりを踏まえて学校内での体制整備及び組織の運用、それを効果的に進めるための教員への資質能力の向上、外部機関や専門家と連携するための構内での体制や教員意識等の啓発などはする必要はないのか。今後は、体制整備ではなく、その体制の運用に軸をおくべきではないのか。もし実態としてまずは体制が整っていないというのであれば、体制整備から始めるべきだとは思うが。
65	7	植田 委員	意見	学校支援地域本部事業は、今後、地域学校支援協働本部事業に移行していくことが求められる時代である。これから10年先を見越したときに、このような取組の方向性でよいのか疑問である。もう少し、学校と地域と家庭の連携を取り巻く動向や変容を意識した取組や主な事業を方向性を示さないといけない。
66	7	植田 委員	意見	これから10年を考えたときに、子どもたちが通う教育環境といった場合に、学校の教育環境だけではなくてと思います。学校と学校がある地域全体が学びの場になったり、ICT環境の整備によって学びの場自体の概念も変わってくると思います。だからこそ、学校と地域と家庭の連携協働が必要なのだと思います。そのような視点に立った施策の展開が必要です。
67	7	植田 委員	意見	「6. 学校教育の充実」が学校教育のソフトの面、「7. 教育環境の充実」が学校教育のハードの面という区分けにした方が、わかりやすいと思う。7の方は、ハード面ということで、学校の施設面や情報機器の環境整備といったことを中心にする。一方6の方は、教育活動やいじめ（思いやりの心はこの部分とリンクしていると思います）、不登校対応、健康体力、そしてそれら全ての基盤となる教員の資質能力という部分での記述にすればよいと思います。
68	7	植田 委員	意見	学校・家庭・地域との連携の推進という内容については、「8. こどもが安全に過ごせる居場所・環境づくり」のところに盛り込んだ方がよいと思う。現在及び今後の取組の方向性として、学校での教育活動への関与や学校運営への関与という視点が江東区では薄く、地域学校支援協働本部事業を中心にしていくのであれば、その方が収まりがよいと思う。
69	7	植田 委員	意見	「知徳体を育む魅力ある学び舎づくり」としているのはよい表現だと思います。だからこそ“学び舎”としてことを生かした内容にすべきだと思います。これからは学校だけが学び舎ではなくなるかもしれません。地域にある社会教育施設との一体的な運用や地域内にある民間の施設等が提供する教育サービスなどとの連携も視野に入れた取組も“学び舎”という発想で捉えてよいと思います。その意味で、もう少し、社会教育という視点や官民連携という視点も盛り込んだ内容で教育環境ということを考えていくことがこれからの10年では必要ですし、この時代だからこそできると思います。江東区内にはその意味で優れた社会教育施設や民間施設が多数ありますし、オリパラ終了後の施設活用という点でも重要だと思います。そのような恵まれた環境があるのですから、そのような視点からもまたこの点は6の学校教育の充実のところの視点としても検討して欲しい。
70	7	吉武 委員	意見	取組方針の記載が抽象的。特に、家庭教育支援は重要な課題と思われるが、どのような形でそれを実現しようとしているのか、もう少し具体的な記述が必要。
71	7	吉武 委員	質問	「明るくのびのび通うことができる教育環境」とあるが、「学校に通う」という意味なのか。施策7は、「明るくのびのび学校に通う」ことだけを指したものなのか、それとも家庭教育や地域社会における教育などを含めた、より広い学びの場を想定したものなのか。その点を明確にしておく必要がある。
72	8	内海 委員	質問	移動型こども110番の家とはどのようなものか、どのような予定か。

No	施策No	委員名	種別	内容（転記）
73	8	吉武委員	意見	・ 現状と課題の文章量に対して、取り組み方針の文章量が少なく本当に充分なのか疑問を抱きます。また、新しい施策が無いですが、追加する必要があるのではないのでしょうか。江東区は人口増加に伴い税収も増えています。そのような区だからこそできる先進的な取り組みを記載すべきではないのでしょうか。 ・ また、AIやITの発達により、こどもの環境は今後10年で大きく変化すると予想されます。それら最新の社会状況についても記述が必要ではないのでしょうか。
74	8	植田委員	質問	ここでいう「子ども」が何歳から何歳までの子どもなのか？また、ここでいう「居場所・環境づくり」というのは地域社会づくりという項目にある中で何を指しているのか？
75	8	森委員	意見	実際にこどもの安全・安心が確保できていることを確認するとともに、それを脅かす事象（いわゆる重大インシデントのような事象）が発生していないかをウォッチする（発生していれば共有する）ことも重要かと思います。
76	8	植田委員	質問	なぜ利用できなかった児童数なのか？この10年（あるいは前期の5年）も量的拡充を整備する必要があるのか。それよりも質の問題ではないのか？質的な部分を検証できるような指標の方がよいと思う。
77	8	植田委員	意見	児童館の活用が今後の重要な課題となるということであれば、その課題解決の状況を検証していくことができるような指標も必要ではないか。
78	8	植田委員	意見	現状の説明が、こういう施策を行ってきましたという説明にしかなくない。その施策を取り組んだ結果、どのような状況なのかという記述が必要。たとえば、きッズクラブについて全校設置して安全で健やかに過ごせる場を提供していますとありますが、それはどのような現状の根拠からいえるのか。
79	8	植田委員	意見	子ども110番の家を得にくい状況にある。という記述があるが、なのに、その要因分析もなく、子ども110番の家事業を実施し、という取組方針となっているが、本当にそれでよいのか。要因が何かによって、取り組むべき方針も違うアプローチが考えられることもあるのではないか。
80	8	植田委員	意見	地域学校支援協働本部事業との関係で、地域における居場所づくりということも進めていけばよいのではないか。地域づくりという視点から何をどのように取り組んでいくのか。これは、教育委員会だけで取り組むことではないですし、他の施策とも関連してくることであると思う。そのあたりの整合性も踏まえた施策の展開が必要な部分であると思う。
81	8	植田委員	質問	江東きッズクラブについては、質的向上、効果的・効率的な仕組みづくりの推進と言っておきながら、主な事業の中にそれらを実施する事業内容の思うが、質的向上を図るために、区としてどのようなことを行い、その事業の成果をどのように検証していくのか。
82	8	植田委員	質問	児童館については、0歳から18歳までの切れ目のない支援を目指し、他の子育て関連施設等との連携など子どもの育ちの支援に取り組みます。としておきながら、主な事業が、児童館管理運営事業としか書かれていない。質的な変容が必要なのであれば、もう少し取り組むべき事業の内容があるのではないか。そのあたりの内容がわからない。また、子育て支援の施策のところにはそのような内容がないですし、9のところにもそのような記述がない。そのあたりの整合性をどう考えているのか。
83	8	植田委員	意見	そのような視点から見たときに、現在の実態の状況がどうなのか、そのような実態をもたらしている要因は何なのか、だからこのような課題があり、このような課題解決を考えているというストーリーが見えない。
84	8	植田委員	意見	量的拡大（特に、きッズクラブ）から質的改善に取組の方向性をするのではないかとしているのであれば、それに見合った事業展開が必要ですし、その事業の成果を検証する指標も設定も必要である。
85	8	植田委員	意見	対象としている子どもの年齢にもよるが、0から18歳というのであれば、他の施策との関連もあるのに、そのあたりの整合性が見えない。

No	施策No	委員名	種別	内容（転記）
86	8	吉武委員	意見	課題として認識しているのは、保留児童の発生、十分な活動空間の確保、乳幼児・保護者の利用増への対応、こども110番の家事業の持続可能性、の4つで良いのか。 現状と課題で示した課題が上記の4つであるならば、それぞれ如何なる方策で課題解決を図ろうとしているのか、もう少し具体的に記載する必要があると思う。
87	8	吉武委員	意見	ITが高度に発達しつつある状況を踏まえて、それらをこどもが安全に過ごせる居場所・環境づくりに活かせないか、国内外の先進事例なども踏まえつつ、豊かな知恵で江東区ならではのアイディアを出してほしい。
88	9	内海委員	質問	施策9にだけ関連する個別計画がない理由について知りたい。
89	9	植田委員	質問	青少年をここで独立させることの意味はどこにあるのでしょうか。
90	9	植田委員	質問	ここでいう青少年とは何歳を対象としているのか。
91	9	植田委員	意見	場の提供、担い手の育成、関係組織の連携という視点はわかるが、それらの視点において何をやるのかという部分は、新しい内容が必要ではないか。主な事業が、現在取り組まれている事業の上書きでしかない。事業ありきのように見えてしまう。
92	9	植田委員	質問	人数や事業数を目標にすると、実施することが目的となってしまうのではないか。 事業ありきの指標設定なのには疑問があります。
93	9	植田委員	質問	青少年交流プラザの利用者や講習会等の参加者数を指標にすることの妥当性はどこにあるのか？
94	9	植田委員	意見	指標に青少年交流プラザや青少年育成指導者養成講習会、青少年健全育成事業が上がっているが、その事業を実施したことの成果としての現状についてほとんど書かれていない。現状としての成果があったからその事業をより進めていくという取組の方向性であればわかるが、現状がわからない。
95	9	植田委員	質問	場の提供という点では、8のところの児童館の在り方の変容との関係の視点からの内容があってもいいと思うが、そのあたりの視点はどうしていていないのか。
96	9	植田委員	意見	全体的に事業ありきというように見える。 青少年として区切るの意味は何か。8との関係で考えると、場の提供という点では、0から18歳という年齢で統合して、地域との連携協働、関係団体との連携、児童館の活用などを視野に入れた新たな視点でも検討が必要ではないか。 健全育成という言った場合の内容が、従来からの地域の担い手の育成という視点に加えて、もう少し現在の、貧困やニートの問題、引きこもりの問題なども含めた新たな課題への対応も含めた内容にすべきではないか。内容が旧態依然の視点だけで書かれているように思える。 他の施策との連携や学校教育との縦の連続性という視点での、社会教育、成人教育等の関係を視野に入れた施策の展開を盛り込んでいくも必要ではないか。
97	全体	内海委員	意見	既に配られている資料と会議当日配られた資料とで変更点があれば開始前に伝えてもらいたい。
98	全体	内海委員	質問	「論点データ集」各出典元データ資料の確認方法について。またそれ以外のデータ資料、一覧はあるか。
99	全体	内海委員	意見	区の将来像にある「伝統、未来、水彩都市」は5つの大綱にどのように紐付けされているか。それによって「江東区らしさ」がでてくるのではないか。
100	全体	内海委員	意見	「江東区長期計画」を見たことがある、参考にしている、満足している区民の割合について。より多くの区民が関心、興味を持つような見やすい構成、工夫が必要のように思う。学校で教材として利用し、児童、生徒が江東区について学んだり、興味ある施策、事業を調査、意見を出し合う等にも生かせるようなわかりやすい内容を目指してはどうか。

No	施策No	委員名	種別	内容（転記）
101	全体	内海委員	意見	指標：アウトプット指標とアウトカム指標を区別するマークや取り組み番号が記載されているとよい。
102	全体	内海委員	意見	取り組み方針：である調にして簡潔にし、担当課を記載してはどうか。課題と同じような抽象的内容を改めて記載するのであれば、より具体性のある事業ごとの取り組み方針が知りたい。
103	全体	内海委員	意見	関連する個別計画：複数ある場合「など」としているが、すべて記載することはできないか。
104	全体	吉武委員 植田委員	意見	・で始まる記述であっても、明確な考え方に基づいて記載順を考えるべきであり、「現状と課題」を読むことで、区のこれまでの取組とその成果に対する現時点での評価、今後の課題が明確に理解できるように工夫する必要がある。
105	全体	植田委員	意見	現状と課題の表現が、施策の紹介に終わっていて、その施策に結果、何がどこまでできてどのような状況になっているのかが現状で語られるべきだと思いますが、その部分の記述が薄いと思います。データ集もそのような観点からまとめられているとは思えません。外部評価報告書がそれに当たるかもしれませんが、もう少し外部評価報告書で指摘したことを踏まえた現状と課題の記述をして欲しいです。
106	全体	植田委員	意見	この指標で何が図ることができるのか。つまり、取組方針の何が実現できたと判断できるのかわからない。何をこの指標で図りたいのかが目指す姿の関係でわからない。
107	全体	植田委員	質問	指標は変更可能なのか？
108	全体	植田委員	意見	区としてコントロールできる指標であるべきではないか。
109	全体	植田委員	意見	指標の実現に向けて、どの事業によって実現されるのかわからない。どの事業をしたからこの指標が上がったとか、下がったとかの判断ができないのではないか。
110	全体	植田委員	意見	10年を見越したストーリーが必要ではないか。10年間でどのようにビジョンを達成するのかという計画にすべきである。どういう江東区をどのように作りたいのかの全体像が見えない。そして、なぜそれをするのかという理由も見えない。どのような課題があり、だからこうするという説明が必要である。
111	全体	植田委員	意見	指標を実現するまでの道筋、ステップがわからない。長期計画なので、そのあたりのステップを示し、それを段階的に検証していくプロセスが必要ではないか。指標で示されていることが1年目からできるわけではないはず。取り組んだ結果として出てくるものであり、その結果を導くために、誰が何をいつどのように行うのかという部分をどう示しながら進めていくのかという部分を示して欲しい。そうでないと、これだけ見せられると、プロセスの部分が見えてこない。
112	全体	植田委員	意見	取組方針と主な事業と施策実現に関する指標との関係をもっと構造的に示す必要があると思います。主な事業が事業名のみなので、取組方針をどのような活動を通してどのように実現するのかという姿が見えない。そのあたりがないと、この長期計画自体の検証ができないと思う。検証を意識した長期計画の構造を示して欲しい。できれば一枚紙で。
113	全体	植田委員	意見	全体の構成をもう一度見直した方がよいと思う。年齢で区分し、関わる当事者や場という観点で内容をまとめていくという発想でもよいのではないかな。
114	全体	植田委員	意見	全体的に、10年というスパンをどのように認識してこの計画案を作成されたのか？ということを知りたい。もっと世の中は変化しているし、それぞれを取り巻く環境も変化しているはず。未来予測は難しい。それを予言者のように予測していくことができない。しかし現状ですでに変化の方向性が示されていることやあるいはすでに変化が期待されていることについての対応すらできていない内容のように思う。現状取り組んでいることの焼き直しではなく、スクラップアンドビルドという発想での内容が必要である。そしてその理由はなぜかということをお民にわかりやすく、そして根拠に基づいて説明することが必要である。それを区民説明会で行えばよいのではないかな。